

極鋭ヒラメEX

◎ダイワヒラメロッドの最高峰モデルが登場。SVF ナノプラス、SMT、次世代AGS、X45などダイワテクノロジーを満載して感度と操作性を徹底的に追求した。ESS & 新バランス理論を駆使して、操作性としなやかさという相反する2つの要素を両立させている。ジョイント部はV-ジョイントαを搭載し、1ピースロッド並みの曲がりを実現。「MH243」は全長2.43メートルの手持ち仕様のショートタイプ。SMT穂先をショート化することで、より研ぎ澄まされた感度を実現。ノーマルヒラメ専用ロッドとしては最軽量の自重113グラムで、福田さんをして「信じられないほど高感度」は、合わせのタイミングを容易に把握できるようになった。「S/MH272」は従来にないほどのしなやかな穂先を実現し、食い込みのよさを向上させた。しなやかながらパットパワーを持ち、大ヒラメや不意の大型青物がきても安心。レングスは横流し時やウネリの高い冬場などオールラウンドに対応する全長2.72メートル。

▲穂先はしなやかなSMT搭載



▲リールシートはエアセンサーシート採用



▲フルAGSと肉薄・軽量のC、Nリング採用で手感度を増幅

アイテム	全長 (m)	継数 (本)	仕舞 (cm)	自重 (g)	先径/元径 (mm)	負荷 (号)	カーボン有率 (%)	適合クラブ	メーカー希望本体価格 (円)
MH-243	2.43	2	126	113	0.8/10.2	30~120	98	SSS	87,500
S/MH272	2.72	2	141	118	0.8/10.2	30~120	98	SSS	89,500

▲「ヒラメ釣りも軽さは感度」を実感した



▲合わせのタイミングまで鮮明に分かるという「MH-243」。自重は113グラム

BASARA IC250PL

▲福田さんは前半はバサラ200Lを、後半はICカウンター付きのバサラIC250PLを使用。カウンターを見なくてもタナや着底を把握できるデブスアラームを搭載



BASARA 200

▲北本さんはバサラ200を使用。ハイバードライブデザイン搭載モデルで軽力で大型ヒラメもスムーズに浮かせる。ATD搭載で大型が急に引いても滑らかにラインを引き出してくれる



快適船ヒラメ仕掛け

▶トリプルフック、シングルフックタイプあり。それぞれ替えバリも

快適船シンカーSN

▼アピール度の高いカラーがヒラメを誘惑。高感度センサーアイで海底の情報を伝える



んな状態になっているのかが分かるんですよ。これ、もう合わせますよ」と「MH243」を使用する福田さんは、アグレッシブに掛けていくこのモデルが大のお気に入りだという。合わせ時が把握できれば、確実に釣果をのばすことが可能だ。合わせを入れてフッキングした瞬間に激しい抵抗を見せるヒラメだが、パットパワーで一気に海底から引きはがし浮かせていく。再び良型だった。次第に沖から南風が吹き込み大きなウネリとなって船を上下させる。

「S/MH272はこんな大きなウネリでも吸収しながら仕掛けを安定させて釣りができます。海が悪い冬の釣りの大型狙いにも向いています」と北本さん。アタリがあつて次の食い込みを待っているとそのまま竿先が絞り込まれる。「食い込みのいいしなやかな穂先で、竿がオートマチックに掛けてくれるというイメージですね。エサをくわえたヒラメに違和感を与えないんです」と北本さんはこのモデルの最大の利点を話してくれた。その後も二人はそれぞれの竿の特性を生かしてヒットさせていく。

「SMT、オールAGS、SVFナノプラスと最先端テクノロジーを満載しています。手に取ってもらえば違いが分かると思います」と北本さんが言え、福田さんは「よくぞこんな竿を作ってくれました」と最大級の賛辞。二人とも大満足の釣果を得て納竿時間を迎えた。この秋冬のヒラメ釣りが楽しみな竿が登場したと言えよう。

フラッグシップモデル 極鋭ヒラメEX登場!

KYOKUEI
HIRAMEIX
S/MH272
+
BASARA
200

★北本さんはオールラウンドモデルの「極鋭ヒラメEX S/MH272」を使用



KYOKUEI
HIRAMEIX
MH243
+
BASARA
200L
★福田さんは攻めの「極鋭ヒラメEX MH243」を使用

北本茂照、福田豊起 最高峰ロッドでヒラメに挑む

THE FRONT OF OFF SHORE FISHING vol.86

ヒラメ最前線

at 宮城県塩釜まがき港出船



◎想像を遥かに超えていると評判なのが宮城県仙台湾のヒラメ釣りだ。数、型とも申し分なく大きな盛り上がりを見せている。今回は北本茂照さんと福田豊起さんが新登場した「極鋭ヒラメEX」を持参して激アツスポットのヒラメ釣りを紹介する。

9月に発売される「極鋭ヒラメEX」はダイワのテクノロジーが結集したヒラメロッドの最高峰モデルだ。軽量、高感度だけでなく、実釣時の感覚的な部分にまでこだわった。「感度一つとっても前作とまるで違います」という北本さんが使用するのは「極鋭ヒラメEX S/MH272」。特筆すべきは「アタリから食い込みまでオートマチック」な点にあるという。同行した福田豊起さんは、「ビックリするくらい感度がいい。どこで合わせを入れたらいいのかまで簡単に分かるのがすごいですよ」と、自身が使用する「極鋭ヒラメEX MH243」の特徴を説明してくれた。

今回は宮城県塩釜まがき港から出船。すでに晩夏からの絶好期に突入しており、連日景気のいい釣果が続いている。4時ごろに出船して航程1時間あまりで水深40メートル前後のポイントに到着。中型のマイワシが配られ釣り開始となった。「あっ、もういる！」と福田さんが1投目の着底と同時にヒラメのアタリを察知。そのまま合わせを入れてフッキング。直後には北本さんにもアタリがあり、開始と同時にあつという間に本命をゲット。船中もバタバタと上がりだし、絶好のスタートを切った。サイズは2〜3キロ級メインの中には80センチを超える大型の姿も。

▲「S/MH272」は「オートマチックに掛かる」しなやかさを持つという。自重は118グラム
▼細部のデザインまで作り込んだ最高峰モデル



◎調子とレングスの異なる2タイプが登場

「底は砂地だね。たまたま小さい根がある」と北本さん。高感度ロッドはエサの動きやヒラメのアタリだけでなく海底の情報も正確に伝えてくれる釣り人の大きなアドバンテージとなる。福田さんは「小さい根を越えたところでイワシが暴れました」と臨戦態勢に入る。「イワシをくわえ込んだときに出るモタレのアタリや、今ど